

カムライグ語の BOD 構文と屈折構文について

小池剛史

The BOD Construction and the Inflectional Construction in Welsh Takeshi Koike

Abstract: The aim of the present paper is to compare and contrast the two major sentence constructions in Welsh, namely: (a) the periphrastic construction with BOD (BOD construction); and, (b) the construction with inflected verbs (inflectional construction). I discuss how these two constructions might be introduced in the teaching of the Welsh language. The BOD construction, particularly that with the predicate *yn*, differs from the inflectional construction in three ways: (1) the former expresses progressive and habit (either in present time or in the past), whereas the inflectional construction expresses volition, or episodic events in the past; (2) stative verbs tend to occur with the BOD construction, whereas dynamic verbs may occur with both constructions; (3) only one of the constructions can be selected for the expression of certain topics. Both constructions are necessary for learners of Welsh, and I argue that both should be introduced at early stages of learning of Welsh.

本発表の目的は、カムリ語の主要な文構造である BOD 構文と屈折構文の用法上の相違点を述べ、さらに二つの文構造のカムリ語学習における導入の仕方について論じることである。

カムリ語の文構造は、動詞 BOD の屈折変化形と動詞的名詞を用いた BOD 構文と、動詞的名詞の屈折変化形を用いた屈折構文とに分類することが出来る。

BOD 構文：

- | | 動詞前虚辞 | BOD 屈折変化形 | 主語 | 付加辞 | 動詞的名詞 | 目的語 |
|-----|-------|------------|----------|-------|---|--------|
| [1] | Yr | ydw | i | yn | gweld | y dyn. |
| | 【肯定】 | 【1 人称単数現在】 | 【1 人称単数】 | 【継続相】 | 見る | その人 |
| | | | | | 「私はその人を見ます」「私はその人が見えます」 | |
| | | | | | (口語カムリ語では通常、yr + ydw は rydw, dw に、i + yn は i'n にそれぞれ短縮し、rydw i'n gweld y dyn, dw i'n gweld y dyn となる) | |

屈折構文：

- | | 動詞前虚時 | 動詞的名詞の屈折変化形 | 主語 | 目的語 | |
|-----|-------|----------------------------------|------------|----------|-------|
| [2] | Fe | welaf | i | y dyn. | |
| | 【肯定】 | 「見る」 | 【1 人称単数現在】 | 【1 人称単数】 | 「その人」 |
| | | 「私はその人を見ます」 | | | |
| | | (口語カムリ語では通常 Fe wela i'r dyn となる) | | | |

二つの構造の共通点は、文頭に動詞前虚辞（肯定、否定、疑問など文の種類を標示）と動詞の屈折変化形（BOD または動詞的名詞の屈折変化形）が置かれ、その後に主語が続き、【動詞】 + 【主語】 というケルト語一般の語順になっている点である。相違点は、屈折構文では動詞部分が動詞的名詞の屈折変化形だけであるのに対し、BOD 構文では BOD の屈折変化形と動詞的名詞の二部に分かれた迂言（periphrastic）構造になっている点である。屈折構文においては、動詞的名詞が屈折変化することにより、動詞的意味と文法的意味（時制、法、人称、数）を同時に表す総合的（synthetic）構造になっている。BOD 構文の場合、動詞的名詞は屈折変化をしていないため、文の動詞的意味のみを担い、BOD の屈折変化形は助動詞として時制、法、人称、数といった文法的意味を表している。さらに動詞的名詞は、継続、完了、未完了といった相を表す付加辞を伴う。つまり BOD 構文では動詞は、動詞的意味は動詞的名詞が表し、その文法的意味は BOD の屈折変化形と付加辞が担っており、後者の働きにより動詞的意味がより複合的意味合いを帯びることになる。

BOD 構文の付加辞は、本来前置詞であったものが相標示の機能を果たしている。yn は「～の中に」といった位置関係、wedi は「～の後に」といった時間的關係を表す前置詞である。これらが付加辞として動詞的名詞を伴うことにより、yn + 動詞的名詞では「～することの中に（いる）」という意味から「～しているところ（である）」（進行相）や「～する習慣（である）」（習慣相）が発達し、wedi + 動詞的名詞の場合には「～した後（である）」「～してしまった」といった完了相の意味が発達した（Comri 1976: 99-100）。

[3] Rydw i'n (= i + yn) rhedeg i'r orsaf nawr.

rhedeg（動詞的名詞「走る」）；i'r = i「～へ」 + y（冠詞）；

orsaf < gorsaf「駅」；nawr「今」

「私は今駅へ走っています」（進行相）

[4] Rydw i'n (= i + yn) rhedeg bob bore

bob bore「毎朝」

「私は毎朝走っています」（習慣相）

[5] Rydw i wedi bwyta brecwast.

「私は朝食を食べてしまいました」（完了相）

屈折構文の場合には、yn, wedi のように相を表す付加辞を伴うことがない。しかし、屈折構文では相が全く表されないわけではない。文語体カムリ語では [2] のような動詞的名詞の現在形を含む文は、現在進行中の動作や現在の習慣を表す。口語体のカムリ語では屈折構造は、未来、特に意思未来を表す（Fe wela i'r dyn yfory! 「私はその男性に明日会います！」）表現として制限されている。現在進行中の動作や現在の習慣を表すための口語表現としては BOD 構文が通常いられる（Ball 2002: 326-7）。このように、特に口語カムリ語では BOD 構

文と屈折構文の用法がある程度使い分けされていると言える。

二つの構造は、動詞的名詞の種類の間からも使い分けがなされている。
gwybod「(事実を)知っている」adnabod「(人)を知っている、認識している」
meddwl「考える、思う」teimlo「感じる」などの静態動詞は付加辞 yn を伴う
BOD 構文において用いられ、屈折構文で用いられることは少ない(Morris Jones
1970: 111-112)。

この用法上の相違は、過去を表す表現において顕著に見られる。上に挙げた
静態動詞は BOD の未完了形を伴う BOD 構文において用いられる。taro「叩く」
agor「開ける」dod「来る」のように起点、終点の明確な動作を表す動態動詞の
場合には、これらの動詞的名詞の過去形を伴う屈折構文が用いられる。動態動
詞でも、その動作が過去において進行中であったことを表す場合には、BOD 構
文を用いる。

[6] Roeddwn i'n meddwl felly.

Roeddwn = yr + oeddwn (BOD の未完了 1 人称単数形) ;

meddwl「思う」; felly「そのように」

「私はそのように思っていた」

[7] Agorodd y dyn y drws.

Agorodd < agor の過去 3 人称単数形 ; y (冠詞) ; drws「扉」

「その男は(その)扉を開けた」

[8] Roeddwn i'n agor y drws.

「私は(その)扉を開けていた」

動詞の種類による使い分けだけではなく、会話の話題によっては屈折構文を
用いなければならない場合もある。例えば自己紹介の中で「私は…年に～で生
まれた」といった内容を話す場合には、動詞的名詞 cael の過去形を用いなければ
ならない。「生まれる」が一つの完結した出来事であることから、進行中の状
態、行為、または習慣を表す(yn を伴う)BOD 構文では表すことが出来ないの
である。

[9] Fe ges i fy ngeni yng Nghaerdydd ym 1970.

ges < cael「得る」過去形 1 人称単数 ; fy「私の」; ngeni < geni「誕生」;

yng < yn「～で」; Nghaerdydd < Caerdydd「カエルディーズ」(カーデ
イフ) ; ym < yn「～(年)に」

「私は 1970 年にカエルディーズで生まれました」

ここまで述べた、BOD 構文と屈折構文の意味上、用法上の様々な相違点を踏
まえた上で、最後にカムリ語の学習の中でこの二つの文構造をどのように導入
するのが学習上効果的であるかという点について論じたい。

カムリ語の学習において、最初に導入されるのは BOD 構文である。BOD 構

文は、一つのパターンを覚えてしまえば、異なる動詞的名詞を用いて様々な文を作ることが出来る。それに対して屈折構文の場合には、それぞれの動詞に対して異なる動詞の活用変化があり、学習上大きな困難を伴う。そのため、屈折構文は学習過程の比較的后半で導入されることが多い。

しかし近年に発行されているカムリ語学習書では、BOD 構文、屈折構文の二つに分けず、会話の状況に応じて必要な構文を、BOD 構文、屈折構文の関わらず導入しているものもある。例として 2005 年カムリ共同教育委員会 (Cyd-bwyllgor Addysg Cymru) 刊行の三巻本の学習書 *Cwrs Mynediad*『カムリ語初歩』 *Cwrs Sylfaen*『カムリ語基礎』 *Cwrs Canolradd*『カムリ語中級』を挙げたい。この学習書は主に話し言葉に重点を置いた学習書であり、各課は話題に応じて必要な文法事項を適宜導入している。表 1 に第一巻の章立てを紹介する。

表 1 を見ると、すべての課には特定の話題の中で用いる表現が例文として挙げられている。その中で、14 課では「あなたはどこに行きましたか?」「私は～に行きました」を表す表現が導入され、その中で mynd「行く」の過去形が導入されている。同様に 16 課では gweneud「する」の過去形が、22 課では cael「得る」の現在形が、それぞれ導入されている。

表 1 *Cwrs Mynediad* (2005) の目次より：各課の例文と日本語訳

*Bod=BOD 構文 屈=屈折構文 無記入=いずれでもない場合

課	Bod/屈折*	各課のタイトル、例文	日本語訳
1		Ynganu	発音
2	Bod	Cyfarch a chyflwyno	挨拶、自己紹介の仕方
3	Bod	Beth yw'ch enw chi? Ble dych ch'n gweithio	お名前は何ですか? どこで働いていますか?
4	Bod	Beth yw ei enw e? Beth mae hi'n wneud?	彼の名前は何ですか? 彼女は何かをしていますか?
5		Adolygu	復習
6	Bod	Ble dych chi'n mynd? Dw i'n mynd i Gaerdydd.	あなたはどこに行きますか? 私はカエルディーズに行きます。
7	Bod	Sut mae'r tywydd heddiw? Mae hi'n braf.	今日の天気はどうですか? いい天気です。
8	Bod	Beth dych chi'n hoffi wneud yn eich amser sbâr? Dw i'n hoffi dysgu Cymraeg.	空いている時間は何をするのが好きですか? カムリ語を勉強するのが好きです。
9	Bod	Oes car gyda ti? Mae Fiesta gyda fi.	君は車持っている? 私はフィエスタを持っています。
10		Adolygu	復習
11	Bod	Pwy yw e? Fy nhad i.	彼は誰ですか? 私の父です。

12	Bod	Faint yw oedran ei ferch e? Mae hi'n flwydd oed.	彼の娘は何歳ですか？彼女は1歳です。
13	Bod	Faint o'r gloch yw hi? Mae hi'n un o'r gloch.	何時ですか？1時です。
14	屈	Ble aethoch chi ddoe? Es i i'r gwaith.	あなたは昨日どこへ行きましたか？私は仕事に行きました。
15		Adolygu	復習
16	屈	Beth wnaethoch chi neithiwr? Gwnes i swper.	昨夜あなたは何をしましたか？私は夕食を作りました。
17		Ar ôl i fi fynd ..., Cyn i fi adael ...	私が行った後… 私が行く前に…
18	Bod	Rhaid i fi fynd. Rhaid i chi beidio mynd.	私は行かなければいけません。君は行ってはいけません。
19	Bod	Ble mae'r ysgol? Cerweh yn syth ymlaen.	学校はどこですか？まっすぐ行って下さい。
20		Adolygu	復習
21	Bod	Beth wyt ti'n feddwl o ...? Mae e'n dda.	～についてどう思いますか？いいですよ。
22	屈 Bod	Ga' i goffi? Dych chi eisiau mynd?	コーヒーを貰えますか？あなたは行きたいですか？
23	Bod	Faint yw hwnna? Dwy bunt.	あれはいくらですか？2ポンドです。
24	Bod	Beth sy'n bod arnat ti? Mae pen tost gyda fi. Mae'n flin gyda fi, dw i ddim yn deall.	君どうしたの？頭痛がするんです。 ごめんなさい、分かりません。
25		Adolygu	復習
26	Bod	Sut un yw e? Mae gwallt golau gyda fe. Oes gardd fawr gyda chi?	彼はどんな人ですか？彼は金髪です。あなたは大きな庭を持っていますか？
27	Bod	Beth dych chi'n gallu wneud? Dw i'n gallu canu'n eitha da. Pa mor aml dych chi'n nofio? Dw i'n nofio bob wythnos.	あなたは何が出来ますか？私は結構上手に歌が歌えます。どのくらい頻繁に泳いでいますか？私は毎週泳いでいます。
28	Bod	Wyt ti wedi bod yn Awstralia? Dw i wedi bod 'na unwaith. Roedd e'n ddiddorol.	オーストラリアに行ったことがありますか？そこに一度行ったことがあります。面白かったです。
29	Bod	Fyddwch chi garter yfory? Bydda i'n gweithio.	あなたは明日家にいますか？私は働いている予定です。
30		Adolygu	復習

この巻全体が BOD 構文→屈折構文という構成になってはならず、原則として会話の話題に基づいて適宜必要な文法事項を紹介している。この巻で紹介する屈折構文で用いる動詞は、*mynd*, *cael*, *dod*, *gweneud* に留められ、屈折構文についてはそれ以上学ばない構成になっている。

本報告の前半で述べたように、BOD 構文と屈折構文は、少なくとも口語体カムリ語では、用法上の使い分けがはっきりしているものが多い。学習上比較的困難な屈折構文でも、初歩的な会話文の中で必要なものもある。自然なカムリ語の学習方法として、*Cwrs Mynediad*に見られるように、BOD 構文と屈折構文を適宜混ぜ合わせた学習順序の方が効果的なのかも知れない。

Comrie, Bernard. (1976) *Aspect: an introduction to the study of verbal aspect and related problems*. Cambridge: CUP

Ball, Martin (2002) *The Celtic Languages*. London: Routledge.

Jones, Morris (1970). 'Preliminary Outline of the Finite Verbal Phrase in Welsh'. *Studia Celtica* 5: 94-147

Meek, Elin. (2005) *Cwrs Mynediad. Ferwiwn y De*. Caerdydd: cyd-Bwyllgor Addysg Cymru.